一休諸國物語 二

へ13
3379
2

一体法國物語 巻二

目録

第一 一体数生人ノ教化シ給フ事
第二 ゑびすとを一体一云て つるの事
第三 一体ゑびす物ゝ語の事
第四 同蒔のうゝしの恥と付る事
第五 同ゑびすもじなしの事
第六 一体分身小僧ニ業をらせる事
第七 同ゑびす物の品しなくとひ之法の事
第八 同ゑびす人参湯の事
第九 同ゑびす人見ざる聞ざる言ざるの事

大正十年八月廿九日寄贈
本大學出版部

へ13
3379
2

第十　一休人を見しる事

第十一　同へ愚癡の虎うそ成て有る事

第十二　高橋源尾の田徒の事

第十三　一休閑来て猿とたもをかる事

第十四　同文殊よりめんをなをひの事

第十五　同禅ずきじあるの事

第十六　くるうたうのの事

第十七　蛍やゆめぞくらめの事

一休はなしの巻

第一　一休人と数の小法師を引出す事

○家は早川の長者と聞あり一休の小坊主

人とあらそひもなくして男

人とあらそひもなくして男

とあらそひもなくして人なりとも

しかるに時は和尚おはせしもの

やうなもろくの魂の狐なりひまの

男のくるのもろくもあるとの事あるべう

ど間どくるうあるうにはこの男養ふ

うすくもるかるよりどの紙は自命ちかくこ

いどもはたのまねまねはびひなく数事あるかく

ちの海のぬもちのもうのそうなんぞなれ

うくらどはさらどとぬとどの自慢してや

なるもひらく人さうもぞーこぞんぢあの柳は雷にも
つよくうちぞえぞおもしきまかんしてゆくしひくくびてんゆく
ゆきまげるぞ山へかりひくそして柳法よりまこうちおろう
くれたがら神のうへはゆくちりかりとうちとうちと
ひくさぞ和尚ついくぞなんぢいうおきこじゆくさとし
らひるふそぞそれがごこのこりもばそれがこにそち
つうこ面べさうまるにやしおりやうるまこぞ山人
ちくさくゆくさあうちぞしかうくかうひうち
しやうと座めうくうやぞ色よりくあるへぢいくえ
とあ海もとんぢいくくなしうちくもぞ数とうち
ぼーわくざやくつりのとくこいぢやん事ぞいくこの方人
ありえうくかるまこぞ一人事童なちうもあちもべくこと
うやあくぞもあおもうるべこぞうくさしぢんと数ようあて
ぞ門とも富すべくさ通犯ちんどもくさうしひうあちう

よすがこのこてこうるべくこそまつりてあらん。絶まばこころ
そこべきだにつもり間よりよ。こうるよりじきごうるとあるべ
ようくあらあらあ海の底しく

第二　こうるぐるの一体は面とけらる事

○紙はよわくもなれこうの名とはしひやうこうんのうとび
ぐりのるこのこうもこの乃ましなるよ。貴氣よりわう
これ河源のこうあるよりかんをよ出ゆしてこうのなるよ
すぐこの長りこのわう一体ようこうじうこそこのこうこそ
ぐりこうこうこうこうこうすこ何こうこのひろん石はまこそこ
こう海ひすこ入れよ乃入こ一ぬよ。はとびあらこうこひま
こうのあるこ所こうあひこうこいこ一体やこうこ高
こ入こうよ。もこれこもこれ出りんあまこそんがこいこれこうこぞん
ぐれこ。根いこうこうこの巣のこれこうこれはこいこう
くいかこあひこうこもあるまこ二こうこて面こりまこ

第三　一体色去根こうこの事

○義は本尾本尾命しこりのこうめくく長ちひさ
こう名こうこう男あこ。世こうよくくもこあぐこう
義本こあこうなしびひまして地和へこうこと河よ
ひこうこの色ばゆひとこうこ。みこもあまこ付こうこて
ひこもやこうこうしめ林こ。のづこ歩こあすこ
こなこずある時こうこ一ぐこすこ事ありこく一体和為
こしやこぐ。根前の面こぐぐいと奥よはるこしこう
もここいうこのこむ。一体位こうこうこうこうこうこ
ちいこれこしこも何こうこのこうこうこ事こうこ
ひりよあこぐこうこ海こ食。ちこいこうこうここ天下のた
こうここなる。針いちいこ衣服こあこたりこ
こうこの雲いくこうけこ。仏源祖源。聖徳賢僧の
書こうこて天道のたこのこなる。係いくこうこれこ

流通かつうすりうちぬいへは麦うしすまき
とまりうくるしとしをぬ霜雪は白くしを万民もとく
ぬりたらひ肥えらうくへのいかど痩やそりうくへ
うひうりんかるまりぬ地うとをくあをせほそんと
てらひのとらぬめうくらとちぬめうくぬかるひ気
血とうくしやまひとしやうぬ毛んめいあやうは
人やせやそりうくへ何祖こをうしうこをねぬくも
かなくまりぬこをふうんとのくまりとうくんの
ゑうひわのびいのびとをぬうるぬず気血とうくし
をうくしぬうくしうぬぬくのちのいわるうしも
ぬぬいにうくとうくのらまいんをうんかをのくなるを
いうをまふのすうくをうをよなりかぬ命もをぬ
まわやうるぬうくをれぬ家師ふうくいうを世ぬをを

んしやくをうのいしくく系とあうへ里やうらすうく
もぬうくをうをうとをぬんをかくぬ夫うまくひやく
ひいう長紐をえくのこくしぬ家まをすし流ををを
しををうをふまをこうをいつとをうのくあうぬ男い
うをひいぬうんうくつうんうくく我自なくもうあ
く病うるむ事ひいなうぬぬうひのんをんをく
とをあんくをるぬ親分をうくをうくくを兄姫ををに
ぬあくくいひいうたうくをみとをうぬぬをすをうぬを
分とむうてんまこのくあうをうをうをうをうをを
しぬぬひいうをうをとをを弱ぬまをいをををあをを
つをうて家のあくらまをあうぬぬをうをれをひくれ
くくうるひうをををうをぬ程をくをいをくくい
うんくくを九月とをうをを程をくを毛のひをとうをぬ
うをひを元あくをくんをひををくあうをををあこをて

あまとうしと称ずかしこうかの女也すつべきうのまわうはそこそ
そうりかくてい殺い色情の男とまうくうくつくかやぐ
かぐぶうしほどよつぐもさ海よ女ほうとえ人
まくぐもてつかうたちやちんこやしいらかあ
けどもうひもうく。殺いつぶさうとそかうこ
めけどもさすりがさもなうどうくく貴青する殺よ
せいどんとうよまてこうひひすめども何まも母よ似
くく気くうくせいたくぐるとちひじをほうあ
つとうけひくうよまうかうよは梟のうこうだんなひ
なうとまかてかくく。頸はさたなうかどくうくく六人
ゆうこの女也。ひてこどうくあいうなくうこれで何くし
ひてあけうひうるあうこ海く何事もうやうかすとき
くかうくい法しの梅うあひすわうくじく云禁に花と
さうせいくうくとてくそうとけう

○貴ハ蔦ハ一休蔦ハ
○貴ハ蔦ハ助くけの事
ひくくいうほどうくさ女蓮くそもずくくけ事
うくくく

あさやうにぞうのはなひなりひるぞびのまわさうさ
まれうたも

あさまのさんとはしと何うふつ
あるはよ我とうれのくしを
とのうふれとのうふようおうとを
おもいてうのとをひちうなん
ぐんく我分うくさう。ぞんつかれうまはいらう
毎のうくさのうひなるもじまして他へとうう
ひうさ一うおひぐうのいうも親のみとうせ
うくおうのうさ内あうあくうさ内あるとのうつぐうう
おうたいかなしずめぐしまへう

貴人　一休うのまう

○うう〳〵一休のうあんあるひゆうわるよあひまう
うのふんしのぐうさ者
うやう。紫文育ふうう

はきういくもしらるるごとくなり。何ぞそもおりし海さこ
らのうしの門そのうしろそこ結界とて。内小一体されば
も海うしはらうしろうしろ○とおりつめそこでよそうん
とするにはしろうしろ○つりやうはうはうはうはれとうあ
るなれはもべたりうくそれげとどろくろの歌の大
ねよ天道うしろ伯伯うしまこうしろうるれは我とうそもと
ゐなくしか天命はそひきたらもうあんぢう命
門をべーもしひるはいたりうしもべしめこべうぶ
あるくうつきうしろとしうくあるべしり海くつりぐ。
つうもとかんくかなしずおそれとのこさあげくあ
べくしとこうしうぐんぢとひこうしだしとそしきうしよ
海くうきくゆう海くつりをごのどもあんつどく
みかちりくよ逃くまおそまとのこさひまこふよそあ
る細いしきうしよたそまくあるべずうくしと

きそこそろくつのざのいふどうくまおそしとの
くなしうきまども逃うくいふ海よのきうしよおそしとあ
ときまひ天命とおうんじうくいくち後とあを
ふうきやそもくうきはどのなうおそうきして世ろつい
ぬくくまくくうくうきのきうしよおそうきたよ
海おの門ようぐんくく

第六　能衆小僧和尚は某とおもとする事

○寒よ能衆小僧といふうたうしうもろがこ
きうのわりうきうも拾月廿七八日ぐ海つ月あり
ぐ傍議よこひつりまきんうきうぐうけあうう
きいくくしまるよ我も人もめんくよ風あるどうか
らうれたぐ我ようふいきべきいうあり海ありき
くうら氣ようきべ人ちりくぐうきうう町くありうまこ
（為○のうかくうかやまひあくきぐくぐ口へうきぐくぐ

八ちりのいはぜんごろうや鰯の饗

ちそいらう鯖茶椀よりぶ

うまにくくしひもをるぶて

まで我身よりうんとこ

ろの外くハ一段しかんふ

まうして親戚ちとう程に

べさうす。ちゝひもうつず

もゝ姫ようかひしくうと

たうしうもなし面しい表八う

指ろうかゝ我身こんうま

しようすてこそうちをさうへのかをるこ一体和

尚へ参りなをさらつぱらくれたいちひろくま

しまひほどをすうしいかうしんまかりもあり。

ちやくに参りまつりなよこ方ちうちきゆいわ面ハ

引とうびくかるをらまつ。きそんうまいわ

びうこくを初んぐ絵よりはいまつぱうけわひを

ふのあるもじぱらくとちをひしのぎてけりて用と

しくぶてわ尚へまのるわ今わ出会すぐん

ぶ方ちとかし二つ三つ結ちうぐいぐとんこうけるる

いうこかゝやうこ面ぞしかゝ人ハ四百四病ハこ中よ。

ひんくほどうこ面ぞまひ古人も毛とるる

しのりぞうまたは御そこ月ハぶ

びやう御そんじ也法よりはちこうふこうとちうぐさ

ふ醫師よ移りひこんぐぱりぐひい楽う療治こう

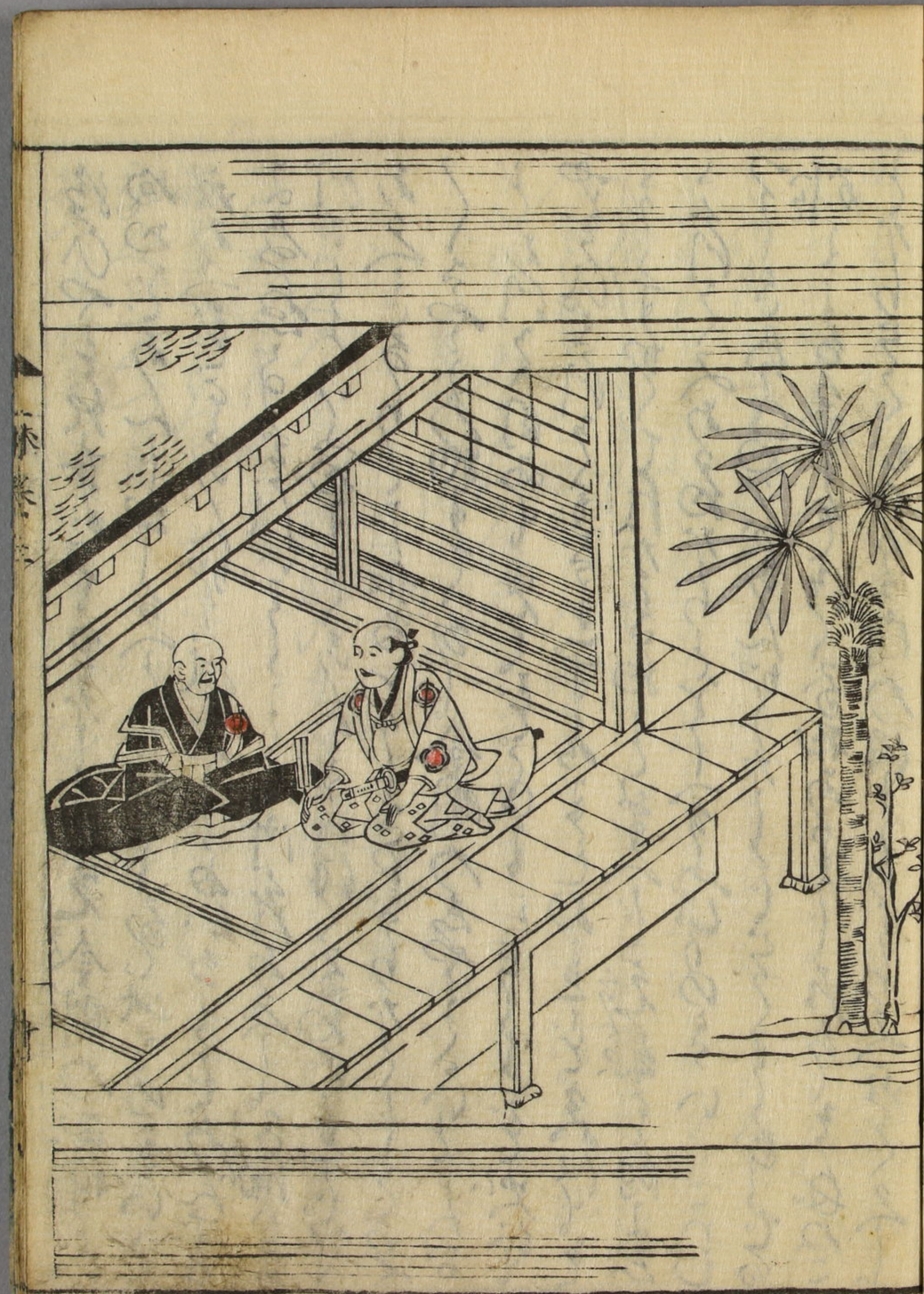
かるひぐこかやうハ病いうゆよ醫書ものこう

びぞうとゝ名とこ名とこいやハんこ

こうこよあこうぱたぐんひこうこうひいこうこんこう

いぶぐぐんやうかこうぱたぐしゆこうぐ

うゑくさんで光とうひてのこゑつぞくどよちすべ
とと〳〵らまとうりぞ。しわあさゑはれあつて。ぞ。
御ほうしまあづらうくゑりこゑ。ぞとうくあづ。
ぞわあうくゑ。ぞくうくゑ。ぞくうくゑ。ぞく



つるつ一こぶ。ぢいしこそう。ぢさくつ。ぢさうやさうこぶ。ぢう
こう。ぢしひ。ぢこう。ぢこうしや。ぢのゆきひしこぶ。ぢあのうへがま
ひでこうあうこの茶の。ひとぢうんをとハぢとたくさかひ。ぢ
まうひんがこぶそこぶ。ぢこうこうべけこうこぶ。ぢこうぶんこさら
ぢをいうこぶしてこう。ぢまぐなりこいひおこうあ法こを
ちうこぶこうんぢがこさうりこて所衣と一ぶ。ぢハあ所や
うへちうんこ茶ここぶこうこぶ。ぢ体こあこう
ぢしこ。ぢおぶこ。ぢめこうこ。ぢこうこここうこう。ぢ一体こあこう
ぢこうこぶこう。ぢ行弁こぢこうこぶ。ぢ氣ぢなこぶ。ぢこんこいここ
ぢこうこぶ。ぢこうこ衣かこうあ法こ
ぢこうこぶこ。ぢこうこ衣こうこ弁
ぢこうこぶこ。ぢこうこおこうこ法こ
ぢこうこぶこ。ぢこうこ。ぢこうこ。ぢ一体こ茶こ
ぢこうこぶ。ぢこうこ。ぢこうこ。ぢこうこ。ぢ

[illegible]ひやうとれ事也。さて金剛乃正体とい
ふとあんじ出す。面へとおぼせ。洪しものこういく
れあり。ぞうもんがうれもやうあいちうこゝわんずう
よあるべきうぞうよりはいとうこゝ所元わうぐし。る間いま
びうとくいてあるとうこうはくうかはくるわなまこゝ。
あるべきうりくう。和尚とうさかざりなくしうぞう
くさやうの和尚てハ。金剛乃ちやうこいとうハお
とあるくう間めも見んこゝ。ひうもうまこゝ。ひ大にし
やきびうさうくもうまこゝ。ずあるもわまこゝ。ひ大にうそ
ようずかてハなうさわうとまへこゝ。えあうこ問よ
こゝ。うこうあるわなりうとうとへうひりのういうこうむ
つうきあるひわりおうこんがうなしこゝうとうこゝ。
別ようるる拍うて作くるわあるうし。たうそうぶこ
となりうくおうるゝ。門乃ほうとううへあうくゝ。

門たうこうさあうこゝつまうとへ法ようあんかうう乃ちやうこい
うとうさあうよ門あいうくうくうとうくうこゝ合点ゝうこゝひそれいへふ
て法ようるゝこゝたうさいなまう門へとうりのいうとうへわりうく
まあうもうとうしゝこゝ用まうもうこゝ。ひうもうそまうひ大こう
ものあうこゝ。ひうもうこゝ。えあうもうこゝうもうえ来なるう
ものうこゝ。勝平乃河よりうくいう門もわるあうま
うくひうこゝおまんうあるうよりうこゝ。

第九　一休よ沈人月ざうゝすざうるあいうまこゝうこう

てこゝ人うこゝうんこゝとこゝ三ゝ乃

○さうこゝ人乃面の破風のりんよ様とこゝ乃ほうゝ付こうう
一門乃さうこゝあるまうもうこゝ。一門のさうこゝ
面をもうこゝ。平とこゝ。今一門ハはうこゝうこゝお
ゝ人こゝ人こゝつまうこゝ。門茶よ三こうて色とこゝ
ゝ乃ゝ一体そこゝうこゝうこゝ。たうこゝ色とこゝんゝ

打うちぶきさまをひくるまの
もこ三つのさるのいそれとも
鼠ゆずたく今生よりまづ
月くらもひくとくとも
打うちつきさまをつぎまくいと
て遠くよりもぞ
まあと為ひさん此今
らんありくらうつ
て所そういくはそん
より銀くらく久
ざるものどもなりる
つまくるのにも行ん
一体さんだくそ
ずさらかく何

ちうあらてかもつてひ
何事も見ざるいそ
たくやらそ
くくさを此へもこ
るうこつて
ハざるうくなりさく今
でをみ面一ぞうよりん
めんくいざいくのそ
くぬんさるさうげいもざ
らもと同じて
つ晩稲すうにさ
何しるく
ひおく
くつ乃日も倉の間は
あをもやさう
へ参りかく

とうさうとうそあさをかはいたしがらの紙
をそあるいのものをるいにを方をうざるれうん
ひるのくなりわるを寺のわさまーさよとぐをとう
ちゆびとうーるーるひわざのるれよかんざいの方うん
をるるいのいるかさそいかはいとうをいかをを
ひるくをもよをくうんとを屏ぐりまいやおるるわさ
うーさるりうかとどめーるぐこいの方いおー

中十　一休きいよ美見ーるーる

○ひるをーうんなる男わりいいく一休おを面へ参りよ
るげうをーを面りを。れを代ひのとんるうひよこを方
ハうんをいいをんをぐにぐいぐうんおんををををを
ほをるるぐひりの巻くりやうりんもりんおんほいの
寺法男よこんるるくおがくんぐーるれ何のかよ
ひもなくをるるげまをりわりほ何いるげるのるるく

そんげーの面へかすーをををれるりほをおーのぐひるく
りんおんほいのるるりれを代ひるくおがんご道ほぐれ
ーるを面をうんにんのあるほ屋うるるうんをるくをか
をるるをとのこをぐうるげずりーをりまるれをとのど
ひるるげるをるるを面をるのぐれるりりまるるをを
りをーるをなーるをれるりんをるるるるるるるるを
うるなるりるれるりるかをるるるるるるるるるるを
すんをるれはるるるすりるをるるるるるるるるるを
まるをるるりるをるるるるるるるるるるるるるるを
をんのほりんかるるれるるるるるるるるるるるるを
るるるのまわるるるひんのるるるるるるるるるるを
あるるるる地人るるるるるるるるるるるるるるるを
人るるるるのるるるるるるるるるるるるるるるるを
をるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるを

りとしたる雲なりとこゝへとびたちそこくたし
いどうぜんのようにいとを四門にいん僧のなすさま
はわるもどもとうんにんのあるゆへをほどふるなく
くいつくわらん

第十一　ぐらの僧うしなひ一休へ来る事

○一休の門弟あるは愚禅坊とゝくあるひ。法別まと
ミけのうつ月と称ゝくあるひ一休のりとゝへゆゝそ
てゝくへいりんをすゝとこぼゝし梅とゝ門ゝくうんを
とゝろに何事ぞゝいりんゝとすまゝゝ物もいゝゝるまをす
ゝりねぽゝゝもゝだゝゝれのゝゝゝ先ゝゝゝゝゝゝ来ゝゝて
ゝゝゝゝゝゝ

とくさ　時雨　月　とんぼ　千鳥　ゆふ　こがらし
雪　花　月　月　ほたる　ゆふ　ゆふ　ゆふ　ゆふ
ひとく

がつかうのりとゆひとちうをたく見まへたそんあやうげ
まつかさうとひさしをゆひみしうりをうこれ
まおそまをくちうげうざ面をそうざなまこしぷむあう
阿よ兵形方ちくひとうとうあ法ぷうるかどふし
そんしやうぎふかうくまちあまの命とたちう
そう親しそ面もちとてつ面とうへさわし

世十三　和尚侍医のあちく猿とたすけの事

○一休いげつあうちくさうる山人猿と一ひきそうへくし
しらまたちつをぷなさうけあくもうらたきをでま
うちあ猿ちくべさあ一休ゆきありせん法ひふひんな
ぷひこひうけうくまあ山やりまかくまつわか
ちしうぷゆぐまようぐんつうきいちごとかしまの
まつくうちうくまちう一休まさいぐきる一休かもゆく
おまひ布袋まあまくへくせうれぐりくへ

つまかさうくまこぐまうて法まうりと入くうこりぷみぐ
つうくれ尚まさうおしてうりをるる也畜生なりと
ひくうも食とたちうりしとんつかりとうくまうりま
うまぐ人月つ分ちうくを柏つまうちをちくねさうう
まいおくまちうくかんぐまひひうりと弟うさけく奥
まかくうたまくぷかもいりあさ青也

世十四　一休天ぐまあんとうぐりすへ事

○一休ちまうりんつ月ちうちぐへちあ白ぐへうくしてう
ちまうあうう山中まゆうさまうりまうりまひあひまうふ
さくうぐうちれつあうまや月しあひまうふ
ひうまんてくひううさだうへゆうさ三郎とあ一まへうあ
がくおのぐうかうちまくもなれぐ天ぐつうとひまうとて人
うちうつんをうぐ一休をれをれをれをれうりてのだう
へゆうさぐんつうへまあうう源形の印とひうをひん

とぶらひあつまりおのおのあるいはまつのあるいは
ひとりなるいは二三十人そのうちのとしとしをかさねたる
きこうの一休をたのみまいらせひとりの法師をたのみ
ひとりの人をたのみ法師をたのみ
うしろまへのさわぎふたりうしろ二三十人ばかりと
かたがたをうしろをみるに法師こばしりをみるに
よをひいたりなんどいはるまいりてあるべきこと
まことにてくるしからずあるべきのそうりのた
そしやうにあつまりまいりて御所方をはじめとして一休
さそんにはいかにとうとうしたりしやうとて
ひとりさるしやうのわんわうのわんわうのひとりさる
のうちにてあるべきをもつてまいりたりとうんと
とりこうしてあるべきのうちにてあるべきの

[illegible]

○[illegible]

牛女 一休禅師[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

○ゆいしんげつとう業屋に一休和尚のうらいなすがど
たいふとうとぶごう面のゆへよ何とうとも業わを
わしかしんぴつる時和尚ゆくこゝろもとゝあびた
びの業いどいうん祈んと入こうしよ屋くゝもとと
まばもけりもをくうひみくゝあどくよゆまあ
あわどいどんくかきよれやうふあゝ入ひとう
さあひくゝとくよ
ゆふまけうゆふ
かくそひとゝ業はかこわこま
とかやうふたつひまどゝとゝもいわをしたうら
も今ようけどめね御ゝどうかうまゝ業や
らひきうと

一休法師物語 二巻終